

港区立郷土歴史館

歴史館だより

特別展「鉄道開業150周年記念 人物でみる日本の鉄道開業」
蒸気機関車模型と鉄道のはじまり小緑 一平
(学芸員)

幕末にアメリカとロシアの人びとが持参した蒸気機関車模型は、それぞれわが国の「鉄道のはじまり」へとつながっていきました。

アメリカのペリーは日本開国の使命を帯びて、嘉永6(1853)年6月に浦賀へ来航しました。翌年の再来時に、アメリカ大統領から将軍へ献上品の一つとして、蒸気機関車模型を持参しました。ペリーの活動のアメリカ議会宛の詳細な報告書である『ペリー提督日本遠征記』の挿図(画像1)には、ペリー再来時にアメリカ大統領から将軍に宛てた献上品を陸揚げした様子が描かれています。画面左寄りに、蒸気機関車模型とレールの姿が確認できます。



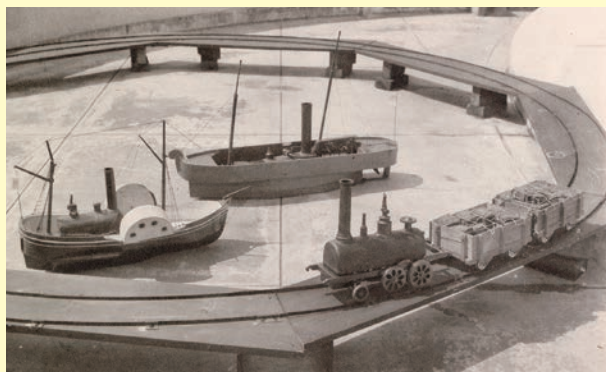
画像1 ペリー持参蒸気機関車模型の陸揚げ風景(当館蔵)

そして、このペリーが持参した蒸気機関車模型を目にした人物の中に、福山藩の儒学者であった江木鰐水がくすいがいました。当時の福山藩主阿部正弘は老中首座で、その側近であった江木は蒸気機関車模型を見る機会に恵まれました。そして彼は、その出来事を手記に「鉄道」の語を用いて記録しました。これが、日本で「初めて」の「鉄道」の語の使用例です。

また、ロシアのプチャーチンは、ペリーの初来航の翌月にあたる嘉永6年7月、やはり開国を求めて長崎に来航しました。プチャーチンもまた蒸気機関車模型を持参しており、この蒸気機関車模型を佐賀藩精煉方せいれんかたの中村奇輔きすけが目にしました。

精煉方は、佐賀藩主鍋島直正が嘉永5年に設置した理化学研究所です。精煉方の中村奇輔、田中久重(からくり儀右衛門、東芝創業者)、石黒寛次は、蒸気機関車と蒸気船の模型製造を願い出て、安政2(1855)年に製作に成功しました。中村がロシア艦上で蒸気機関車模型を見てから2年後のことでした。

田中久重の伝記である『田中近江大掾だいじょう』には、精煉方が製作した蒸気機関車と蒸気船の模型の写真(画像2)が掲載されています。幕末に国内で製作された蒸気機関車の模型としては最も古くかつ現存する唯一のもので、戦後国鉄により鉄道記念物に指定されています。現在も旧佐賀藩主鍋島家の歴史資料管理などを行う公益財団法人鍋島報効会ほうこうかいに伝わっています。



画像2 精煉方製作の蒸気機関車・蒸気船模型(当館蔵)

佐賀藩出身の大隈重信は、幕末に佐賀藩精煉方が製作したこの蒸気機関車模型を目にしています。明治2(1869)年8月に民部・大蔵たいふ大輔となった大隈は、伊藤博文や渋沢栄一、前島密ら開明的な若手官僚を率いて、日本で「初めて」の「鉄道」事業に着手しました。そして、鉄道建設が正式決定すると、実質的な責任者となりました。

特別展「人物でみる日本の鉄道開業」では、日本の鉄道開業を、歴史資料や出土遺物、浮世絵などさまざまな資料と、鉄道開業に関わった人びとをとおして紹介します。



港区立郷土歴史館

歴史館だより

たかなわちくていあと

高輪築堤跡の発掘調査

鈴木 美和
(学芸員)

高 輪築堤跡の現地発掘調査は令和3(2021)年5月から始まりました。調査は街づくり計画に合わせ、北から1街区、2街区…として4街区まで、街区単位で調査を進めていきました。

これらの調査に先立ち、令和2年9月～12月の期間、2街区と3街区の間の第2東西連絡道路地区の調査を実施しています(図1)。この調査で得た情報から、築堤の内部構造を想定したものが図2です。設計図などが残っていない築堤の調査を進める上で、この想定図は非常に重要な役割を果たしました。



写真1 木組み遺構(南東から)

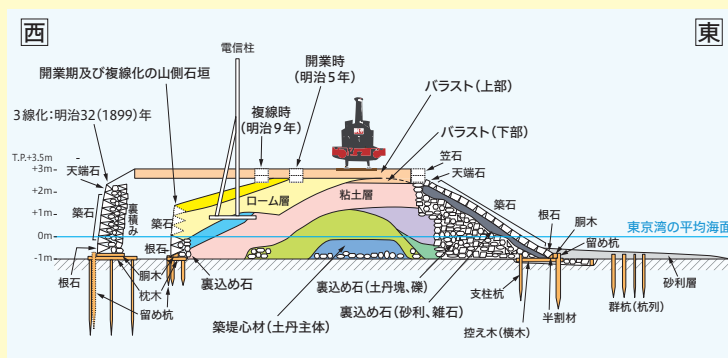


図2 高輪築堤の内部構造推定図

実際に調査を始めてみると、当初の想定を超え、様々な情報を得ることができました。基本的な構造はおおむね想定図どおりでしたが、場所により盛土の質や土のおさえ方などの細部に差がありました。

また、当初は想定していなかったものも確認しています。そのうちの1つが、築堤を東西に横断するように確認された木組みの遺構です。この遺構は、木の杭や板で組まれた土留めのような構造物をもっており、壊

されることなく盛土の中に埋もれていました(写真1)。

さらに調査を進めていくと、この遺構は築堤工事の中でも比較的早い段階で作られたことがわかりました。また、盛土が積まれた方向を確認したところ、この遺構を境に片方は北から、片方は南からと、異なる方向から土が積まれていました。築堤の工事では、おそらく複数の作業チームが携わったこと

でしょうから、この遺構は各チームの工事作業の区画を示しているのではないかと考えています。

現地での発掘調査は一段落し、今後は調査で得られた測量図や写真、築石や木杭の材質等のデータを整理し、文献等を含めたさまざまな角度から検証していきます。最終的には「発掘調査報告書」という形で調査成果を報告しますが、その途中段階も不定期でお知らせしていきたいと考えています。引き続き関心をお寄せいただけると幸いです。

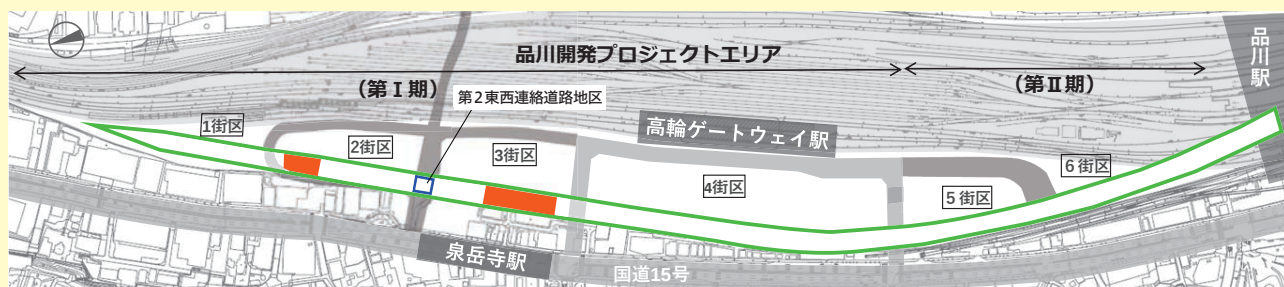


図1 調査位置図

国指定史跡範囲(2021.9.17告示)

高輪築堤跡(港区遺跡No.208)の範囲

0 50 100 250m